

Ⅲ. ダイバーシティ事業の 活動報告

① 連携体制の推進

①-1 | ダイバーシティ連携推進会議名簿・会議議事

名簿

(令和2年1月末日現在)

機 関 名 等		氏 名	備 考
国立大学法人 山形大学	副学長・理事 男女共同参画推進室米沢分室長	阿部 宏慈	第1号委員 議長
	男女共同参画推進室准教授	井上 榮子	第2号委員
大日本印刷株式会社 研究開発センター	センター長（4月～9月）	中西 稔	第3号委員
	センター長（10月～）	古川 智彦	第3号委員
	研究管理部長	大野 浩平	第3号委員
	エキスパート	桑原 尚子	第3号委員
山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学	学長	鈴木 道子	第4号委員
	健康栄養学部長	大和田浩子	第4号委員

【参考】

山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程（平成27年8月5日制定）

- ① 第1号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室規程に定める分室長
- ② 第2号委員 山形大学男女共同参画推進室米沢分室の職員 若干人
- ③ 第3号委員 大日本印刷株式会社研究開発センターの職員 若干人
- ④ 第4号委員 山形県立米沢栄養大学の職員 若干人
- ⑤ 第5号委員 その他推進会議が必要と認める者

会議議事等

(令和2年1月末日現在)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)に係る案件	ダイバーシティ 持ち回り会議	通 知
英語論文の書き方・プレゼンテーションセミナー開催について	—	4月25日
平成31年度ダイバーシティ研究環境実現イニシア ティブ事業(連携型)事業計画(案)について	4月24日	5月15日
男女共同参画セミナーの開催について	—	5月28日
第1回ダイバーシティ連携推進会議の開催について	—	5月28日
ライフイベントによる研究中断からの復帰への研究 費支援申請の審査結果について	—	6月4日

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (連携型)に係る案件	ダイバーシティ 持ち回り会議	通 知
女性代表共同研究支援の採択について	5月20日	6月5日
第1回自己啓発合宿の開催について	—	6月26日
交換留学(大学からDNPへ)の実施について	—	7月16日
外部資金獲得セミナーの開催について	—	7月25日
交換留学(大学からDNP)の採択結果について		8月19日
全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム ウェブサイトへの参考事例の掲載について	7月23日	8月28日
全国ダイバーシティネットワークプラットフォーム 取組事例集の掲載について	8月27日	9月10日
3機関合同シンポジウムの開催について	—	9月30日
博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動 セミナーの開催について	—	10月29日
交換留学(DNPから大学へ)の実施について	—	11月8日
令和元年度活動報告書の作成について	—	12月25日
外部評価委員会(持ち回り)の開催について	12月20日	(令和2年)2月5日
第2回自己啓発合宿について	—	2月12日
令和2年度年間活動計画について	2月14日	3月予定

第1回 ダイバーシティ連携推進会議 議事

日 時 令和元年7月5日(金) 12:00～13:10

場 所 山形大学小白川キャンパス 法人本部役員会議室

I 協議事項

- 1 平成30年度事業結果説明書(三機関)
- 2 COI連携について
- 3 令和元年度事業計画書(三機関)
- 4 今後の取組について

II 報告

- (1) 全国ダイバーシティネットワーク組織 東北ブロック会議
- (2) 各機関より

III その他

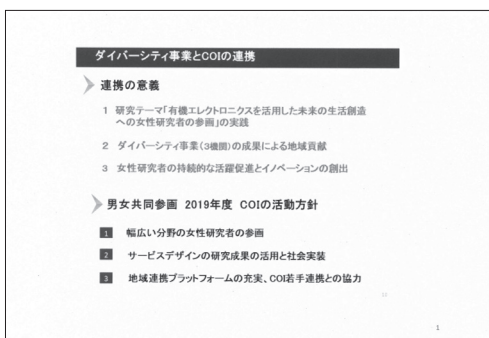
② ネットワーク

②-1 | 山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)

山形大学では25の参画機関(企業・高等教育機関 平成31年2月1日時点)と協力し、平成27年にJSTセンターオブイノベーション(COI)プログラムに採択された。この事業は10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定し、革新的なイノベーションを産学連携で実現し続け実用化を目指すための「イノベーションプラットフォーム」を整備することを目的としている。有機ELや生体センサを軸に、地域に根ざし「生活イノベーション」の実現を目指すJST事業(～2021年)であり、2回連続で「S」評価を得ており、女性・若手活躍が期待されている。本ダイバーシティ事業は、平成29年度より事業連携をしてきた。

事業後半に入り、本事業はCOIとの連携を強化し、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」という研究テーマを実践し、これまでの3機関の研究成果の社会実装と地域還元を加速している。今年度は、COIと共催し、8月に地域連携プラットフォーム会議の講演会、11月に3機関合同のシンポジウムを開催し、COI若手連携と共催で女性研究者・若手研究者の研究交流会を開催した。

COI連携において、本事業は「地域連携プラットフォーム会議」を担当しており、COI事務局や若手連携の協力し、健康で豊かな未来の生活創造をめざした地域との情報交流の場を提供し、米沢市健康長寿市民会議などの健康で豊かな地域づくりへ協力している。第1回「地域連携プラットフォーム」会議は、平成30年3月14日(水)に「女性や若者が活躍できる元気な地域づくりの推進について」をテーマに開催している。今年度は、第2回会議を次のとおり開催し、地域の健康関係の行政、市民36名に参加いただいた。非常に好評で、今後も交流を継続することになっている。



主催：山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)

第2回地域連携プラットフォーム会議 ～小野川のまちづくり～

2019年8月28日(水) 15:00～17:00
山形大学米沢キャンパス11号館2階 未来ホール

講演
小野川のお湯の良さを生かしたまちづくりの展望
高澤 由美
山形大学大学院理工学研究科 助教

参加無料

研究報告
地域のヘルスツーリズム事業と連携したベットセンサの実証実験について
熊木 大介
山形大学大学院理工学研究科 准教授

問合せ・連絡先
山形大学男女共同参画推進室 米沢分室
TEL0238-26-3356
Email y-danjoyz@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

COI施設見学もあります!

図1 チラシ

山形大学COI 第2回プラットフォーム会議「小野川のまちづくり」



図2 会場の様子

日時 令和元年8月28日(水) 15時～17時
 場所 山形大学米沢キャンパス11号館2階 未来ホール
 講演 山形大学 助教 高澤 由美

「小野川のお湯の良さを生かしたまちづくりの展望」

研究報告 山形大学 准教授 熊木大介

「地域のヘルスツーリズム事業と連携した
 ベッドセンサの実証実験について」

COI施設見学

②-2 | 大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」

本事業の成果を県内15の高等教育機関に波及し、県内のダイバーシティを推進することを目的に、平成30年4月1日に大学コンソーシアムやまがた「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」を山形大学が中心となって設立し、本事業を公開し、交流を行っている。

今年度の活動内容は、ダイバーシティ推進ネットワーク会議を2回(5月24日、11月14日)開催した。また、管理職セミナー(7月5日)、シンポジウム(11月19日)を共催で開催し、公開事業をとおして交流を深めた。加盟機関を対象とする「男女共同参画推進状況調査」を継続して実施した。全国ダイバーシティネットワーク組織の情報も共有できるようになり、交流が充実してきている。

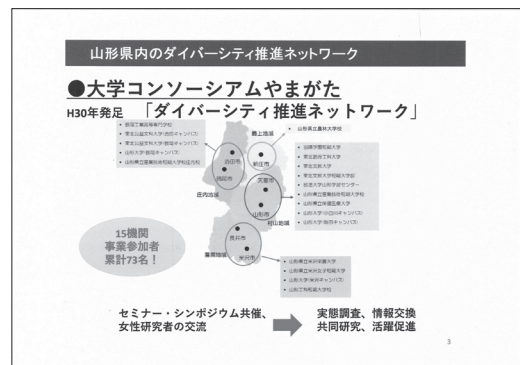


図3 ダイバーシティ推進ネットワーク会議

②-3 | 全国ダイバーシティネットワーク組織

文部科学省の「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」の新規事業である「全国ネットワーク中核機関（群）」が平成30年10月に採択され、11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置された。代表幹事は大阪大学、副代表は東京農工大学であり、日本IBM（株）は協働機関、日本学術会議は協力機関として参画している。「全国ダイバーシティネットワーク組織」のもとで、8つの地域ブロック会議が置かれることになり、山形大学は東北ブロック会議の幹事大学に委嘱された（図1）。

この事業は、全国で女性研究者の研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぎ、将来的に自立して活動を行う全国ネットワークの構築を目指し、国内外の取組動向の調査やその経験、知見の全国的な普及・展開等の支援を図ることを目的としている。事業は6年間で、補助金は最初の3年間のみ支給される。地域ブロックについては、3～4大学の幹事大学を設置し、地域ブロック会議を年1回以上開催し、地域の特性に合わせた活動に取り組む。東北ブロック会議の代表幹事は東北大学で、幹事大学は山形大学と岩手大学である。東北地方におけるネットワークの強化に加え、全国的な情報共有の機会が増すことで、関係機関の活動が広く認知され、優れた女性研究者の獲得につながるなどの効果が期待される。また、全国ならびに地域の企業との情報交流の機会が増し、新たな企業との連携も期待できる。令和元年にウェブサイトOPENeDが開設され、本学の取組も掲載されている。

今年度はCOI連携やネットワークの面で躍進が顕著であり、南東北のネットワーク構築を進め、県内の「ダイバーシティ推進ネットワーク会議」と全国ネットワーク組織との接続を図っていることは高く評価されている。

<令和元年度の活動>

- 6月3日（月）全国臨時幹事会（大阪）
- 7月5日（金）南東北会議（山大）
- 10月3日（木）東北ブロック幹事会
勉強会（東北大）
- 12月6日（金）幹事会・シンポジウム（東京）
- 2月25日（火）東北ブロック勉強会（東北大）



図1 全国ネットワーク

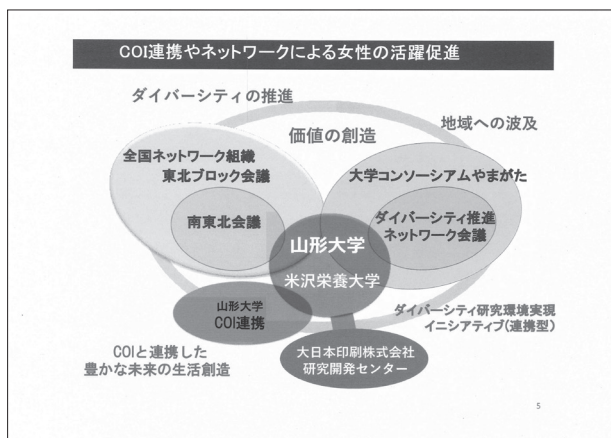


図2 ネットワークの関係

③ 意識改革

③-1 | 男女共同参画セミナー

～ダイバーシティが拓く山形の未来～

日時：令和元年7月5日（金）15：10～17：00

場所：山形大学小白川キャンパス法人本部第1会議室

<テレビ会議配信>

飯田キャンパス：看護学科棟第2会議室

米沢キャンパス：管理棟3階テレビ会議室

鶴岡キャンパス：農学部テレビ会議室

大日本印刷株式会社研究開発センター（柏）

参加者数：58名

【内容】

1 基調講演「ダイバーシティが組織・企業・大学を強くする」

講師：日高乃里子氏（帝人株式会社人財部）

ダイバーシティ（社員の多様性）自体が目的ではなく、多様な人材の適材適所により「経営上の成果」につなげることが目的であり、違いを生かし競争優位につなげる戦略をとること、多様な人材が結果を出すことについて、お話があった。また、「サクセッションプランの女性枠新設」「女性幹部候補育成プログラム」「家庭事情による退職者再雇用制度」「配偶者海外転勤同行休職制度」など、多数の優れた制度を実施し、近年女性管理職が大幅に増加したことや、外国籍社員の活躍推進ならびにLGBTに対する取組等についても、幅広く紹介いただいた。

参加者からは、「経営視点のダイバーシティのお話はとても興味深く、勉強になりました」「長期的かつリーダーシップを持った取り組みが重要であると学んだ」「ダイバーシティは企業の利益と少なからず関係していると知って意外でした」など、多数の感想が寄せられた。

2 講演「ダイバーシティ2.0 一歩先の競争戦略へ」

講師：木村拓也氏（経済産業政策局経済社会政策室・室長補佐）

ダイバーシティは、グローバルな人材獲得力の強化、リスク管理能力の向上、取締役会の監督機能の向上、イノベーション創出の促進の面で、企業価値の向上に効果があると考えられることについて、報告があった。

また、ダイバーシティ2.0とは、“多様な属性の違いを活かし、個々の人材の能力を最大限引き出すことにより、付加価値を生み出し続ける企業を目指し、全社的かつ継続的に進めていく経営上の取組”であり、その行動ガイドライン実践のためのアクションについてご紹介いただいた。

参加者からは「国の政策の方向性、日本の位置付けを知ることができました」「この危機感をもっとたくさんの方がシェアできると良いと思います」「諸外国と比較すると日本のダイバーシティにおける女性活躍の場が低いことを改めて認識しました」などの感想が寄せられた。

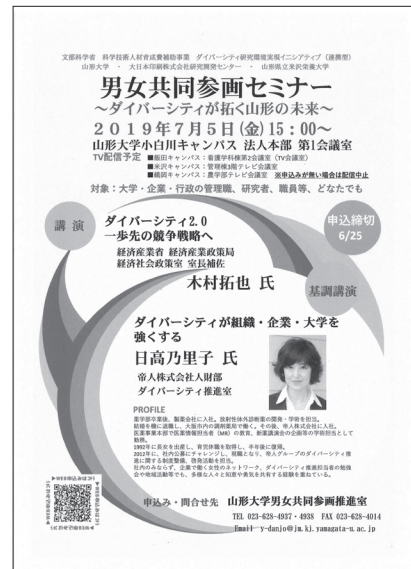


図1 チラシ



図2 講演する日高氏



図3 会場の様子

DAKE JANA I **TEIJIN**

男女共同参画セミナー ～ダイバーシティが拓く山形の未来～

ダイバーシティが組織・企業・大学を強くする

2019.7.5.

帝人株式会社 人財部
ダイバーシティ推進室
日高 乃里子

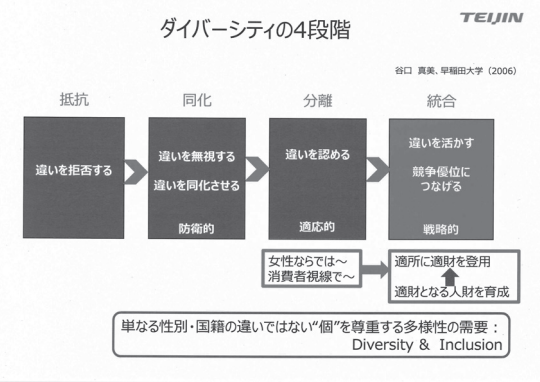
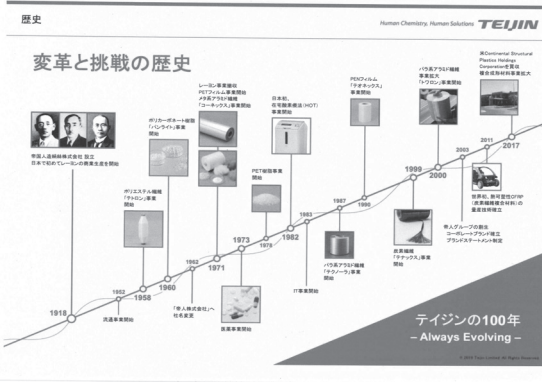
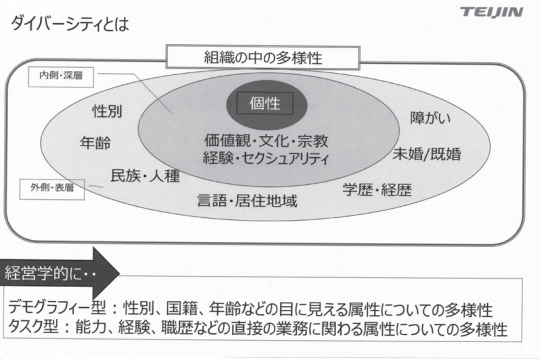
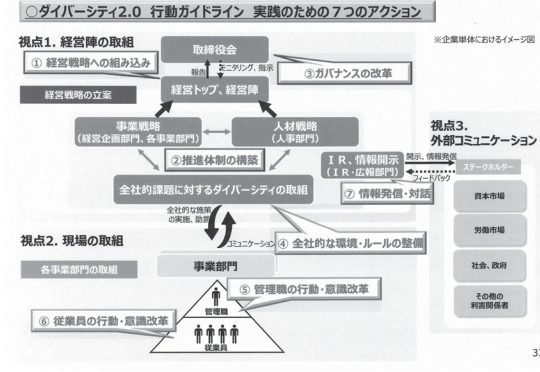
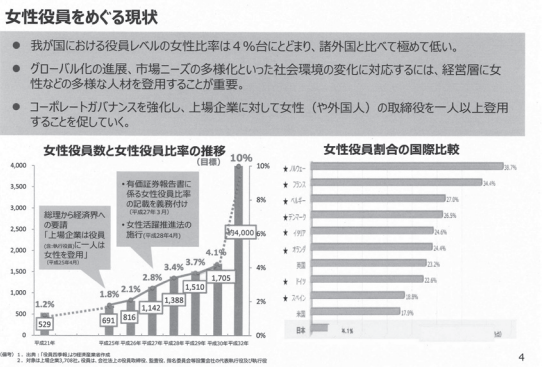


図4 日高氏の資料より

経済産業省

競争戦略としてのダイバーシティ推進

2019年7月5日
経済産業省
経済産業政策局 経済社会政策室



企業価値を実現するダイバーシティ2.0【定義】

- “多様な属性の違いを活かし、個々の人材の能力を最大限引き出すことにより、付加価値を生み出し続ける企業を目指し、全社的かつ継続的に進めていく経営上の取組”

① 中長期的・継続的な実施と、経営陣によるコミットメント
② 組織経営上の様々な取組と連動した「全社的」な実行と「体制」の整備
③ 企業の経営改革を促す外部ステークホルダーとの関わり（対話・開示等）
④ 女性活躍の推進とともに、国籍・年齢・キャリア等、様々な多様性の確保

図5 木村氏の資料より

③-2 | 3 機関合同シンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型) 3 機関合同シンポジウム 「豊かな健康長寿社会をめざして」

日 時：令和元年11月19日(火) 13:30~17:00

場 所：山形大学米沢キャンパス11号館2F未来ホール

<テレビ会議配信>

大日本印刷株式会社研究開発センター

参加者数：78名

市民、健康・食品関係の行政・企業などの一般

参加者42名、連携機関・COI関係者36名



図1 チラシ

【内容】

- 1 開会の挨拶 13:30~ 山形大学 理事・副学長 阿部宏慈
- 2 女性研究者共同研究報告 13:35~
「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザイン・プロジェクト活動内容」 黒谷玲子(山形大学学術研究院 准教授)
- 3 講演 14:10~
「豊かな健康長寿社会の『食』～うま味の伝道師からの提案」
二宮くみ子氏(NPO法人うま味インフォメーションセンター 理事)
- 4 女性研究者共同研究報告 15:20~
「加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響：味覚障害を呈する認知症を捉える」
伊関千書(山形大学学術研究院 講師)
「適切な嚥下調整食を提供するための運用ツールの開発」
三原法子(山形大学学術研究院 講師)

<休憩> 15:50~

- 5 「SDGs × COI若手・女性研究者交流会
～SDGsの観点からの研究交流～」

16:00~

原田知親

(山形大学学術研究院 助教)

- 6 閉会の挨拶 16:55~

米沢栄養大学 学長 鈴木道子



図2 会場の様子

【概要】

(1) 講演

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学の3機関は、平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」の採択を受け、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに連携して取り組んでいる。6年間の事業期間の後半では、山形大学COI（フロンティア有機システムイノベーション拠点）と連携を強化し、未来の豊かな健康長寿社会の実現をめざしている。

シンポジウムでは、「うま味の伝道師」として世界的に活躍されている二宮くみ子様を講師にお迎えし、「うま味を知って健康になろう」というテーマでご講演いただいた。健康な食生活に関心をお持ちの市民、企業、行政の皆様はじめ、米沢栄養大学の学生、高校の家庭科の先生方など42名や関係者36名、合計78名の参加があり、アンケートの結果では97.6%の方から有意義だったという回答があった。

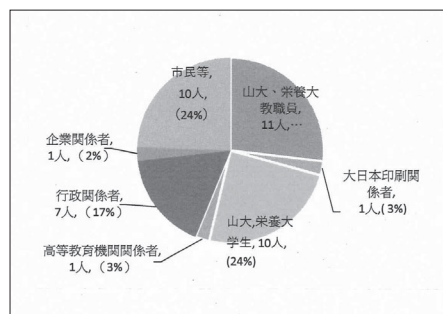


図3 参加者アンケート

二宮氏（上智大学大学院理工学部研究科卒業、広島大学大学院生物生産学部博士課程修了、農学博士）は、1982年に味の素株式会社に入社され、上席理事（グローバルコミュニケーション部）などを経て、現在はNPO法人うま味インフォメーションセンターの理事を務め、うま味研究の推進や普及活動を積極的に行っている。二宮氏が山形大学COIにも協力しておられることから、ご多忙の中、このたびのシンポジウムに御協力いただいた。講演では、旨味（うまい味）とは異なり、「うま味」とは味覚の一つで、その成分はグルタミン酸ナトリウム、イノシン酸ナトリウム、グアニル酸ナトリウムであること、和食は低カロリーで塩分控えめでも満足感が得られること、昆布水が口腔ケアにもつながることなどについて、科学的な根拠や具体例も含めて紹介いただき、健康と食について新たな視点で考える貴重な機会になった。

<参加者からかの感想>

- ・育った環境や文化で、味のイメージが異なることが興味深かった。
- ・高齢者の唾液の分泌を促進し、減塩としても使うことができ、さらに美味しいという嬉しい効果ばかりだと思った。
- ・母乳にグルタミン酸が含まれていることや離乳前の赤ちゃんもうま味を喜ぶことが興味深かった。
- ・うま味について講義で扱うので、お聞かせいただいた内容を今後に生かしていきたい。
- ・専門家の二宮先生のお話をお聞きし、うま味を活用した給食を提供していきたいと感じた。
- ・漬け物に化学調味料をかけないなど、うま味の効能を捨てる食改運動に対して、啓蒙を図る必要があると思った。
- ・うま味という味覚には不思議な力があるのだと思った。これからもいろいろな方面に役立つようになるとうよい。
- ・うま味、ダシを料理のおいしさに限らず、健康などに応用できないか考えたい。

（2）女性研究者共同研究報告

講演を挟んで、ダイバーシティ事業の取組報告を行った。本事業は6年間の事業期間の5年目であることから、これまでの女性研究者の研究成果を山大COIと連携して社会実装し、地域の未来の豊かな生活創造へ貢献することをめざし、健康や食をテーマにした3つの研究を報告した。学内の異なる分野の女性研究者の報告に対して、参加者から、「女性の視点でとても面白い」、「早く社会実装してほしい」、「総合大学である山大のメリットをフルに活用し、複合的に健康の研究が進められていることを心強く感じた」などの感想が寄せられた。このシンポジウムを機に、山大COIと連携し、共同研究・社会実装に向けての取組が具体化しており、シンポジウムの目的を達成することができた。

<参加者からかの感想>

①「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザイン・プロジェクト活動内容」（黒谷玲子）

- ・ワクワクするプロジェクトだと思う。主婦が少しでもラクができ、楽しく料理できたらすばらしい。
- ・有機エレクトロニクスと栄養の連携を初めて聞いてとても面白かった。
- ・未来展開型のアイデアを異分野交流による頭脳の集結で実現が可能になるかもしれない。
- ・興味深く、実用化にはコストや競合類似技術などの課題があるが、深化を期待する。
- ・二つのプロトタイプが実用化したら、健康や食事に興味を持ち、健康を見直すきっかけになるのでは。

②「加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響：味覚障害を呈する認知症を捉える」（伊関千書）

- ・認知症やパーキンソン病の患者さんが味覚障害を呈することを初めて知って、勉強になった。
- ・味覚と認知症との関係について理解を深めることができた。
- ・嗅覚、味覚障害と認知症について、身近な問題として認識できた。
- ・医学界に味覚の学問を確立して欲しい。
- ・新たな研究テーマ、今後の展開に大変に興味がある。

③「適切な嚥下調整食を提供するための運用ツールの開発」（三原法子）

- ・食べ物カルテ、初めて聞いて、生命を保つには食が一番大事なのでハッとさせられた。
- ・「オーラルフレイル」について初めて知ることができ、ツール開発の現状について学ぶことができた。
- ・やわらかいものを食べ過ぎると、さらにフレイルが進行するということを知ることができた。
- ・総合大学である山大のメリットをフルに活用し、複合的に健康について研究が進められていることを心強く感じた。
- ・誤嚥にとらわれ過ぎず、今ある機能を維持できる給食を提供していく必要があると思った。

（3）COI若手連携共催「SDGs × COI若手・女性研究者交流会～SDGsの観点からの研究交流～」

COIの原田知親氏の協力により、COI若手研究者と女性研究者のポスター発表を初めて開催した。

（※詳細については、70頁「女性研究者研究成果発表会」を参照）

家庭でできるうま味活用レシピ

NPO法人うま味インフォメーションセンター



1

世界の伝統的うま味食材



発酵食品の中でも、発酵の過程でたんぱく質が分解されて遊離アミノ酸になるものは、うま味が豊富に含まれている。

大豆のたんぱく質が分解してできる発酵食品

味噌
醤油
納豆



魚の塩漬け+発酵

魚醤
塩辛



乳たんぱく質が発酵してできる発酵食品

チーズ



2

コラポだしは 昆布だしとフイヨンの1:1の合わせだし

昆布だし

材料 (だし約300ml分)
乾燥昆布 4cm×3cm (水の重量の2~5%)
水 350ml

だしの取り方

- ① 昆布は表面の汚れを取り、水350mlとなべに入れ、中火にかける。
(時間があるときは火にかける前に昆布を30分ほど水につけておくとよい。)
- ② 沸騰直前に昆布を取り出す。



フイヨン

肉や野菜を煮込んで作ったフイヨンまたは、市販のフイヨン、コンソメの素
キューブ1個(顆粒は小さじ2杯)を水300mlに溶かす。



コラポだし

昆布だしとフイヨンの1:1

3

図4 二宮氏の資料より

④ 研究とライフイベントとの両立支援

④-1 | 研究支援員制度

(1) 制度の目的

出産、育児、介護等のライフイベントにより十分な研究活動を行うことができない研究者に対し、研究とライフイベントを両立するための研究活動を支援する者（以下「研究支援員」という。）を配置し、研究力の向上を図ることを目的とする。

(2) 支援の対象者

連携機関に所属の常勤研究者又は非常勤研究者（週の勤務時間が30時間以上で雇用期間が2ヶ月を越える者をいう。）で、次の（1）～（3）に該当するライフイベント中の者を対象とする。ただし、男性研究者については、配偶者が大学・大学共同利用機関・独立行政法人又は企業に所属する研究者であるときに限る。

- (1) 妊娠又は小学6年生までの子育て
- (2) 市町村から要介護又は要支援の認定を受けている親族（別居の場合には、合理的理由のある者に限る。）の介護
- (3) その他、上記理由に準ずるライフイベント

(3) 支援する業務

支援する業務は、研究データの整理・研究者の実験補助等。

(4) 支援する期間及び時間

支援する期間は、4月1日から9月30日まで（前期）及び10月1日から翌年の3月31日まで（後期）の6ヶ月単位とする。支援する時間は、週15時間以内とする。

(5) 利用者状況（令和元年度前期・後期分）

<令和元年度の利用状況>

利 用 年 度	山形大学		米沢栄養大学
	令和元年度(前期)	令和元年度(後期)	令和元年度(前期)
利 用 者 数	21名	19名(継続13名)	2名
申 請 理 由	育児・介護	育児・介護	介護
支 援 員 配 置 時 間	2,024時間	1,740時間	689時間

④-2 | 夜間保育、休日保育、病児・病後児、学童保育利用料補助制度

(1) 制度の目的

仕事と育児の両立を図ることを目的とし、連携機関に所属する女性研究者等に対し、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育の利用に対する利用料金の補助を行う。補助金額は、子ども1人につき年間20,000円を限度とする。

(2) 支援の対象者

連携機関に雇用されている研究者（非常勤の研究者（週の勤務時間が30時間以上で雇用期間が2ヶ月を超える者をいう。）を含む。）で、小学校6年生までにある子どもを養育する者。男性研究者については、その配偶者が、大学、大学共同利用機関、独立行政法人、公設試験研究機関、公益社団・財団法人及び民間企業で雇用されている研究者に限る。

(3) 登録者・利用者の状況

利用者の殆どが平成28年度から継続利用者が多く、学童の利用が多くなってきている。

<登録者数> 令和2年1月末日時点

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
登録者（研究者）	4名	7名	9名	8名	8名
登録者（子ども）	9名	13名	16名	15名	14名

<目的別利用者数（子ども）> 令和2年1月末日時点

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
夜間保育	3名	4名	7名	3名	7名
休日保育	0名	0名	1名	2名	
病児・病後児	0名	2名	2名	3名	2名
学童保育	0名	2名	3名	6名	4名
合計	3名	8名	13名	14名	

④-3 | ライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度

(1) 制度の目的

女性研究者が妊娠・出産・育児・介護などのライフイベントによる研究中断後、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究者を継続的に育成・支援し、研究環境の多様性を促進することを目的とする。

(2) 支援の対象者

当該復帰した日の前日の3年前の日の属する年度の4月1日から遡って過去3年以内に、ライフイベントのため概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した女性研究者を対象とする。

(3) 申請状況と審査結果

<申請件数>

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
申請数	2件	6件	3件	2件
採択数	2件	6件	3件※	2件

※平成30年度採択のうち、1件は平成30年9月より研究中断し、令和元年度に研究再開

(4) 令和元年度復帰支援制度採択による研究

本年度採択された復帰支援制度に係る研究は以下の2件である。研究中断理由は、いずれも妊娠・出産・育児によるものであった。

1. 八木 真由（山形大学学術研究院（医学部腎泌尿器外科）・助教）

テーマ「mTOR阻害剤耐性腎癌での膜貫通型TNF α の免疫細胞への作用解明、治療戦略の開発」

2. 今田 志保（山形大学学術研究院（医学部看護学科）・助教）

テーマ「健康診断における発達障害児のためのプレパレーションツールの開発に向けた基礎的研究」

④-4 | 相談員制度

相談員制度は、ダイバーシティ研究環境の支援制度として位置づけられ、女性研究者の研究とライフバランスの両立を支援することを目的にした制度である。主に連携機関に所属している女性研究者・女子大学院生を対象にしているものの、ワークライフバランスに関する相談など連携機関に所属するものなら男性も含め誰でも利用できる。電話、メール、相談申込書により受付け、日時や場所については相談者と調整の上決定する。相談者の話を聞いたうえで、有益な情報や支援制度を案内する。また、疑問や要望など対応が必要な場合は関係機関へ検討を依頼し、問題の早期解決を目指し深刻化を防げるよう取り組んでいる。

本事業が認知され、支援制度の利用率が向上されるとともに利用者は減少しているものの、一定数のニーズがあり、研究者との信頼関係を構築できている。

④-5 | 託児サポーター制度

連携機関に所属する教職員等の仕事と育児の両立を支援する制度であり、一般財団法人女性労働協会の保育サービス講習カリキュラムに基づいた講義及び保育実習を修了した学生が「託児サポーター」として、保育士の指導の下で託児業務を行う。託児業務の監督は、委託先であるNPO法人スマイルハウス（米沢市）所属の保育士が行う。

(2) 託児の実施状況

令和元年度の実施状況は以下のとおり。山形大学米沢キャンパス（ゲストハウスYU談話室）およびスマイルハウスにて実施した。

実施日時		利用者数	備考
平成31年 4月 5日（金）	10:00~18:00	1名	5歳男児

⑤ 女性研究者の研究力向上

⑤-1 | サービスデザインプロジェクト

本事業が、サービスデザインプロジェクトをとおして研究力を向上し、COI連携を強化して女性研究者の活躍促進を図っていることが、「2019年度版 ものづくり白書」(経産省・厚労省・文科省 2019.6.11)に掲載された。

事業後半では、サービスデザインプロジェクトの研究成果やシーズの共同研究と社会実装をめざして取組を進めている。令和元年11月19日にCOI共催で3機関シンポジウムを開催し、黒谷玲子准教授(理工学研究科)

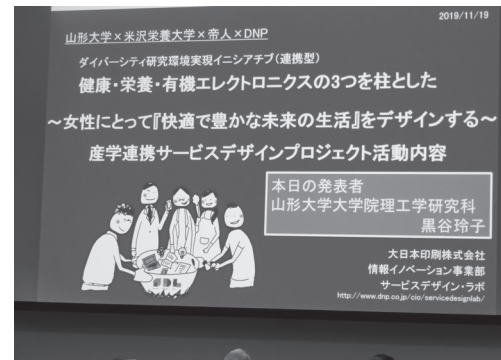


図1 シンポジウム報告

より、「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザインプロジェクト活動内容」と題して報告発表を行い、新たに制作したポスターを展示し、研究交流を深めた。その後、社会実装に向けた検討会議を国際事業化研究センターで実施した。

コラム 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」による大学の取組

—山形大学— 有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画
山形大学は、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」をテーマに、3機関(山形大学、大日本印刷(株) 研究開発センター、山形県立米沢栄養大学)が協働で女性研究者のワーク・ライフ・バランスを図る支援体制を整え、女性研究者の参画を促し、研究力を強化する取組を行っている(図1)。
特に、新たな思考と方法(サービスデザイン)と、オープンイノベーションを用いたサービスデザインプロジェクトは、「女性にとって快適で豊かな未来の生活」の実現をテーマとした研究力向上の取組として高い評価を受けている(図2)。
また、山形大学 COI(フロンティア有機システムイノベーション拠点)と連携し(図3)、3機関の強みである「健康」「栄養」「有機エレクトロニクス」を活かし、これまで女性研究者や生活者の視点が入りこなかった工学の「生活」にかかわる研究・開発にイノベーションを起こすことを目指している。

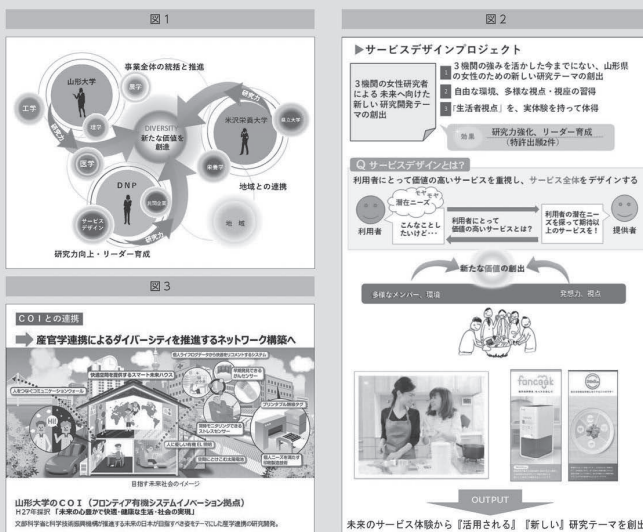


図2 ものづくり白書

⑤-2 | 女性代表共同研究費支援制度

(1) 制度の目的

女性代表共同研究費支援制度は、連携機関に雇用されている女性研究者が研究代表者となり、研究代表者が所属する機関以外の連携機関に所属する研究者等と共に行う研究を支援するものである。

(2) 申請状況と審査結果

今年度は合計5件の共同研究の申請があった。これらの審査を「ダイバーシティ共同研究支援審査会」（審査員は連携機関の事業実施責任者及び山形大学男女共同参画推進室チーフ・コーディネーターの4名で構成）が、提出された申請書に基づき、研究の社会貢献度、有用性、研究計画及び支出計画について審議を行った。

その結果5件（内訳：山形大学5件）が採択された。

(3) 令和元年度に採択された女性代表共同研究

表1 令和元年度女性代表共同研究採択一覧

研究代表者	1	2	3	4	5
	三原 法子	伊関 千書	黒谷 玲子	渡辺 理絵	吉田 麗娜
所 属	山形大学・講師	山形大学・講師	山形大学・准教授	山形大学・准教授	山形大学・プロジェクト研究員
テーマ	適正な嚥下調整食提供のためのモバイル食品物性評価ツールの開発	加齢・神経変性が味覚に及ぼす影響：味覚障害を呈する認知症を捉える	新規生理活性物質SCGB3A2の食物アレルギー改善薬としての検証	高齢者を対象として買い物環境と食生活・栄養摂取状況と関係について	有機/無機ナノ多層膜の溶液プロセスによるフィルムデバイス用防止層の開発
研究期間	平成28年6月1日 ～ 令和2年3月31日	平成29年5月1日 ～ 令和2年3月31日	令和元年5月1日 ～ 令和2年3月31日	令和元年6月1日 ～ 令和2年3月31日	令和元年5月1日 ～ 令和2年3月31日
共同研究者 1	江口 智美 米沢栄養大学・講師	大野 浩平 大日本印刷株式会社研究開発センター・部長	山田 英明 米沢栄養大学・教授	金光 秀子 米沢栄養大学・教授	沖本 直子 大日本印刷株式会社研究開発センター
共同研究者 2	鈴木 拓史 山形大学・准教授	山下かおり 大日本印刷株式会社研究開発センター・課長	山口 光枝 米沢栄養大学・准教授		
共同研究者 3	西岡 昭博 山形大学大学院・教授				
共同研究者 4	香田 智則 山形大学大学院・准教授				
共同研究者 5	村澤 剛 山形大学大学院・准教授				

⑤-3 | 英語論文の書き方・英語プレゼンテーションセミナー

研究者にとって国際学会での発表や英語論文の執筆は必須能力であることから、女性研究者の研究力向上を目的として、英語論文の書き方及び英語による効果的なアカデミックプレゼンテーション方法について学ぶ英語の書き方・英語プレゼンテーションセミナーを開催した。

日 時：令和元年6月6日(木) 13:30~16:30

場 所：山形大学小白川キャンパス 法人本部第1会議室

<テレビ会議配信>

飯田キャンパス：医学部第2会議室

米沢キャンパス：講義棟3階会議室

鶴岡キャンパス：農学部テレビ会議室

参加者数：89名

講 師：野口ジュディー津多江氏(神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 名誉教授)

【内容】

<1校時>13:30~15:00

「英語論文の書き方」

<2校時>15:10~16:30

「英語による効果的なアカデミックプレゼンテーション方法」

参加者からは、「ただ論文を書くだけでなく、誰にどのような内容を伝えるかを明確にした上でアプローチすることが必要だと学びました」「現在、Abstractを作成しているので、非常に勉強になった。単語の選び方や話の流れなど、もっと早くにセミナーを聞いたかった」など、多数の感想が寄せられた。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)
山形大学・大日本印刷株式会社研究開発センター・山形県立米沢農業大学

対象
研究者、教職員
ポストドクター
学生等 (性別不問)

英語論文の書き方
英語プレゼンテーション
セミナー

2019年6月6日(木) 13:30~
山形大学小白川キャンパス 法人本部 第1会議室

TV配信
(予定)
米沢キャンパス：講義棟3階会議室
飯田キャンパス：医学部第2会議室
鶴岡キャンパス：農学部テレビ会議室

講師
野口ジュディー津多江氏
(神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学部 名誉教授)

PROFILE
ハワイ大学(化学専攻)卒業、テンプル大学大学院
修士課程修了(外国語教育)、バーミンガム大学博士
課程修了、博士(応用言語学)、武蔵川女子大学家学
部教授(英語)を経て、2017年3月まで神戸学院大学
グローバル・コミュニケーション学部、現在は名誉
教授、ESP (English for specific purpose) の研究、
ESP (English for specific purpose) の研究、ESP教材開発、ESP教育を
専門とする。主な著書に「Judy先生の英語科学論文の
書き方 増補改訂版」「Judy先生の成功する英米英語
プレゼンテーションCD付き」(以上共著：講談社)、
「理系英語のライティング」「理系英語のプレゼン
テーション」(以上共著：アルク)など多数。

プログラム
使用言語：日本語
1校時 13:30~15:00
「英語論文の書き方」
2校時 15:10~16:30
「英語による効果的な
アカデミックプレゼ
ンテーション方法」

申込み・問合せ先
山形大学男女共同参画推進室 米沢分室
TEL 0238-26-3356・3359 FAX 0238-26-3398
Email y-dan.joyz@ja.kj.yamagata-u.ac.jp

申込締切
2019年5/27

QRコード

図1 チラシ



図2 講演する野口氏



図3 会場の様子

⑤-4 | 外部資金獲得セミナー

日 時：令和元年9月26日（木）10：30～12：00

場 所：山形県立米沢栄養大学 D301大講義室

参加者数：31名

講 師：佐藤嘉倫 氏

（東北大学大学院文学研究科 教授）

【目的】

女性研究者をはじめとする大学等の研究者の外部資金獲得を促進し、研究に取り組む意識の啓発と研究力向上を図る。

【内容】

今年度で5年目となる外部資金獲得セミナーは、昨年度に引続き、本事業の取組みを地域に波及させるために、「大学コンソーシアムやまがた」に加盟する県内の高等教育機関に公開し、本学を含め6大学から31名の参加があった。本セミナーは過去4年間、理科系の講師から講演いただいていたが、県内高等教育機関への公開に伴い、昨年度は文科系の教員の参加者が増えたこと、またアンケートでも文科系の講師の講演をお聴きしたいとの要望があったことから、東北大学大学院文学研究科教授 佐藤嘉倫 氏を講師に招き、お話しいただいた。

講師の佐藤氏は、現在、日本学術振興会学術システム研究センターの主任研究員を務められており、審査員の選考や審査・評価結果の検証等に関わられたご経験をもとに、科学研究費の審査方法の詳細や変更点、採択に向けた心構えと戦略、不採択の際のセーフティネット等についてお話しいただいた。特に、採択に向けた戦略に関して、ご自身が採択を受けた際に提出した研究計画書を記載例として示し、戦略的に研究計画書を記載するための考え方とその方法について、分かりやすく具体的に説明いただいた。

参加者からは、「実際の研究計画書を見せていただき、イメージが掴めた」、「審査システムに関わっている視点から、大変参考になる教示をいただいた」、「最新情報のほかに重複応募可能なメニュー等、科研費獲得率向上のためのアイデアを知ることができた」、「民間助成金の公募に応募予定だが、教授いただいたポイントに沿って申請書を作成したい」等の感想があり、本セミナーは、参加者にとって科学研究費をはじめとする外部資金の獲得に資する最良の機会となった。

外部科学研究費 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ・研究環境実現イニシアティブ (連携型)
山形大学 ・ 大日本印刷株式会社研究開発センター ・ 山形県立米沢栄養大学

外部資金獲得セミナー

～科学研究費の獲得に向けて～

2019年9月26日 (木) 10:30~12:00

講師 佐藤 嘉倫 氏
東北大学大学院文学研究科・教授

講師profile
東北大学大学院社会学研究科単位取得退学。博士(文学)。横浜国立大学准教授。東北大学文学部助教授。山形県立米沢栄養大学社会学部・社会学部社会学部客員研究員等を歴任。2002年より現職に至る。現在、日本学術振興会学術システム研究センターの主任研究員として、科研費等の審査システム・評価業務に参画している。

場所 山形県立米沢栄養大学
D301大講義室 (3F)

連携機関及び「大学コンソーシアムやまがた」の加盟機関に所属する研究者であれば、どなたでもご参加いただけます。

山形大学・大日本印刷(株)研究開発センター
に所属の方は、山形大学男女共同参画推進室米沢分室
(0238-26-3356) お問い合わせください。

お問合せ・申込み先はコチラ▼
山形県公立大学法人 山形県立米沢栄養大学
TEL 0238-93-2932 / FAX 0238-22-7333
E-mail: hirume.masakazu@yone.ac.jp

図1 チラシ



図2 会場の様子

⑤-5 | 自己啓発合宿

自己啓発合宿の概要と講師の紹介

この自己啓発合宿は、連携機関に所属する女性研究者の研究開発能力、マネジメント能力などを育成し、自己の啓発を推進することを目的としてスタートした。2年間で計4回のプログラムを継続受講することで、主体的にキャリアビジョンをデザインするスキル及び、組織のリーダーとして必要なスキルの育成をはかる。講師には、大日本印刷株式会社が2012年よりスタートさせたメンター育成プログラム（現在は、ダイバーシティ推進者育成プログラムとして継続）でご指導ご協力いただいている、ライフデザインズ・オフィス代表、小西ひとみ氏を迎え、育成方針からアドバイスいただいている。本合宿はグループワークを中心とした実践形式で進められ、第1回「キャリアデザイン概論&自己分析」、第2回「プレゼンテーション」、第3回「チームビルディング」、第4回（最終回）「キャリアプランニング・行動計画／修了式」で構成されている。最終回では、2年間の集大成として、自ら立てたキャリアビジョンをメンバー全員の前で決意表明し、新しいキャリアを一歩踏み出すことで修了となる。5年目にあたる本年度は、第3期のスタートになる。「ダイバーシティの拡大」として、女性だけではなく大日本印刷の男性研究者3名を受講生として選出した。



<講師 プロフィール概要>

小西 ひとみ (<http://www.konishihitomi.com>)

ライフデザインズ・オフィス代表

ファシリテーター/キャリアカウンセラー (CDA)

認定心理士

国家資格キャリアコンサルタント養成講座の認定講師

国家資格キャリアコンサルタント

日本心理学会会員

第3期 第1回自己啓発合宿

2019年9月2日（月）、3日（火）の2日間、千葉県柏市にある31VENTURES KOILサロン（柏の葉オープンイノベーションラボ）にて、第3期第1回（山形大学2名、大日本印刷8名）自己啓発合宿を開催した。

第3期第1回では、「キャリアデザイン概論&自己分析」をテーマに実施した。大日本印刷の参加者は、各本部より推薦された次世代リーダー候補の8名（女性5名、男性3名）、山形大学より、2名（女性）が参加した。



図1 グループワークの様子



図 2 講義の様子



図 3 第3期受講生

1期生、2期生と同様に、グループワークを通じて、自己を振り返り、自己肯定感を高め、主体的にキャリアビジョンを構築していくプロセスを実践した。

グループワークでは、男性を1人ずつメンバーに入れた3グループで実施した。議題に対する受け止め方や考え方の違いについて、個人だけでなく男性と女性の間でも気づきがあり、これまでとは違った、創発的なディスカッションが繰り広げられた。今回も駆け足ながらも最後は『未来の自分』について決意表明を行った。これから2年間のプログラムを通じてブラッシュアップしていく。

事後アンケートでは、「自己効力感を高める必要性と、具体的なビジョンを考えることの大切さを改めて感じ、自分に欠けていることを再認識した」、「自分が内心承認しているか否か、明確な方向性を持っているか否かで、ひとつひとつの小さな選択や行動が決まっていき、結果大きな差として現れてくるという事を学んだ」、「キャリアについて、普段から自分なりに考えていたつもりの内容であっても、誰かに言葉にして説明する／質問されることで改めて考えさせられ、整理し直すことができ、新しい気づき／発見があった点が非常に良かった」等の前向きな意見が多く寄せられた。

1日目 (2019.09.02)

時刻	講義内容
10:00	オリエンテーション
	講義&演習
12:00	ランチミーティング
13:00	講義&演習&シェアリング
	質問会議
	講義&演習&シェアリング
18:00	終了

2日目 (2019.09.03)

時刻	講義内容
10:00	前日のふりかえり
	シェアリング
	質問会議
	決意表明&シェアリング
	ランチミーティング
12:45	講義&演習&シェアリング
	質問会議
	講義&演習&シェアリング
18:00	終了

表1 第1回スケジュール

第3期 第2回自己啓発合宿（延期）

第3期第2回は、2020年2月27日（木）、28日（金）の2日間、東京都新宿区にあるDNP大日本印刷市谷研修会館にて、リーダーとして伝える力、共有する力を高める重要なスキルとして、「プレゼンテーション」のテーマで開催予定であったが、新型コロナウイルスの拡大を受け、延期とした。

なお、新たな日程については、情勢を踏まえ再調整する。

1日目（2020.02.27 予定）

時刻	講義内容
10:00	オリエンテーション
	講義&演習
12:00	ランチミーティング
13:00	質問会議
	講義&演習&シェアリング
	プレゼンテーション演習
	質問会議
17:00	終了

2日目（2020.02.28 予定）

時刻	講義内容
10:00	前日のふりかえり
	プレゼンテーション演習
	講義
12:00	ランチミーティング
13:30	プレゼンテーション演習
	質問会議
	プレゼンテーション演習
	講義
16:30	終了

表2 第2回スケジュール（予定）

⑤-6 | 女性研究者研究成果発表会

日 時：令和元年11月19日（火）16：00～16：55

場 所：山形大学米沢キャンパス工学部11号館 2階ラウンジ

【目的】

主に学生（大学生、大学院生）等を対象にした女性研究者の研究成果発表会を開催し、女性研究者の裾野の拡大を図る。

【内容】

山形大学COIと連携して実施した3機関合同シンポジウム「豊かな健康長寿社会を目指して」（一般42名、関係者36名、合計78名が参加）に引き続き、「COI若手研究者・女性研究者成果発表会および交流会」を初めて開催し、研究者によるポスター発表が行われた。この企画は、米沢栄養大学で例年開催している「女性研究者成果発表会」を兼ねており、ポスター発表者は11名（うち、女性研究者は10名、4名の女性大学院生を含む）で、幅広い分野における交流の機会となった。

発表会では、参加者が研究者の発表に熱心に耳を傾ける姿や積極的に質問を行っている様子が見られたほか、発表者間の情報交換も活発に行われた。参加した米沢栄養大学の学生からは、「食事や健康には栄養学だけではなく、医学や科学等の様々な学問の力が必要であることを認識した」、「一つの目標に向かって、それぞれの専門性を生かして様々な大学や企業が連携した研究を進め、より良いものをつくりあげていこうとする姿勢に感動した」等の感想があった。

<発表内容>

発表者	所属	タイトル
金光 秀子	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部・健康栄養学科	就労支援施設利用者の食生活に関する実態調査
江口 智美	山形県立米沢栄養大学 健康栄養学部・健康栄養学科	酸化チタン板が揚げ物の食味と物性に及ぼす影響
丸田 妙華	山形大学 工学部バイオ化学工学科	新規生理活性物質SCGB3A2の食物アレルギー改善薬としての検証
金 歩美	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	肺におけるSCGB3A2とビタミンCの相互作用の検討
佐藤 優衣	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	SCGB3A2の生理活性部位の決定
土屋みなみ	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	SDGs×NPO法人AYINA（アイーナ）×研究
黒谷 玲子	山形大学大学院 理工学研究科バイオ化学工学専攻	「～女性にとって『快適で豊かな未来の生活』をデザインする～産学連携サービスデザイン・プロジェクトの研究成果」
渡辺 理絵 阿部 大樹	山形大学農学部	高齢者の買い物環境と食生活への影響—酒田市を事例として—
伊関 千書	山形大学医学部第三内科	味覚・嗅覚障害を呈した辺縁系脳炎2症例の検討
吉田 麗娜	山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター	"Photochemical Solution Processing of High Performance Thin Film Encapsulation for Organic Light-Emitting Diodes"
原田 知親	山形大学大学院理工学研究科	人や物の様々な行動や環境を計測するための低電力駆動データ収集システムプラットフォーム



図1 ポスター発表の様子



図2 会場の様子

⑥ 女性研究者の裾野拡大

⑥-1 | JOIN交流会～企業研究者との交流～

日 時：令和元年11月25日（月）16：00～17：15


場 所：山形大学工学部内 百周年記念会館 セミナールーム

参加者数：8名

【内容】

女性研究者の裾野の拡大を図ることを目的とし、女性大学生・大学院生等を対象とした女性研究者との交流会を実施した。今年度は、11月25日～27日の交換留学（企業から大学へ）の期間に合わせて本学を訪問した、大日本印刷株式会社研究開発センターに所属する女性研究者3名との交流会を山形大学工学部で開催した。

交流会では、学生の日頃の研究の悩み、進路の相談など様々なテーマについて話し合われた。自然科学系の学部・大学院に進学し、ふだん話しにくいことを身近なロールモデルである先生たちと話し合い共有することで学生たちは進学や将来のキャリアやプライベートでの不安を払拭し、企業の研究環境や就職について様々な話を聞いたり意見交換をする機会となった。



文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）
山形大学・大日本印刷株式会社研究開発センター・山形県立米沢栄養大学 主催

山形大学女性大学院生ネットワーク
ジョイン
JOIN交流会
～企業研究者との交流～
2019年11月25日（月）
16：00～17：15
山形大学工学部内 百周年記念会館 セミナールーム

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業活動の一環として、大日本印刷株式会社の研究者らを迎えての交流会を開催します。どなたでも参加できますので、ぜひお越し下さい。

対象：山大JOINのメンバー、連携機関に所属する研究者、大学院生、学部生（JOINに登録していない方の参加OK、性別不問）

JOINとは・・・平成30年度に発足した山形大学女性大学院生ネットワーク（通称：山大JOIN）です。

JOINのメンバーに登録する方法
必要事項を記載のうえ、Emailより申込みください。
＜必要事項＞氏名、所属、学部、Eメールアドレス

JOIN交流会のお申込みは、電話またはメールにて下記へお願いします。（申込締切：11/18）

問合せ・申込み先 山形大学男女共同参画推進室
TEL023-628-4937 Email : y-danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

図1 JOIN交流会のチラシ



図2 交流会の様子

参加した山大JOINのメンバーや、米沢栄養大学の女性大学院生からは、「人生でもお仕事でも大先輩のお話を聞いて大変勉強になりました」「話しやすく、聞きたいことが聞いて有意義でした。時間があっという間でした」などの感想が寄せられた。

⑥-2 | 博士学位を目指す学生のためのキャリア・就職活動セミナー

日 時：令和元年11月21日（木）13：00～16：00
会 場：山形大学米沢キャンパス 附属図書館 3階ラーニングコモンズ
主 催：山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院
共 催：山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター、山形県立米沢栄養大学
参加者数：20名

【目的】

主に女性ポストドクターや女性大学院生・学部生等を対象に、大学だけに限らず企業の研究職についても知ることで、高い研究能力を生かせる道を探る機会とし、女性ポストドクター、女性大学院生の育成と、博士課程進学への関心を高めることを目的とする。

昨年に引き続き、山形大学フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院が主催する「キャリア・就活セミナー」に共催して開催する。

【内容】

第一部 13：00～13：30 キャリアセミナー

講師 基盤教育機構 准教授 松坂暢浩 氏

第二部 13：40～15：40 パネルディスカッション

（コーディネーター）

基盤教育機構 准教授 松坂暢浩 氏

（パネリスト）

平成29年度修了 菅野 亮 氏

平成30年度修了 高橋寛貴 氏

山田典靖 氏

フレックス大学院3期生 傅 茂鈞 氏

（コメンテーター）

基盤教育機構 准教授 山本美奈子 氏

15:40～16:00 質疑応答

前半のセミナーでは、松坂准教授より、一般的な就職活動の流れや活動フェーズごとの活動量、採用面接の基本的な質問内容やその選考基準、さらには就職先を見つける方法について講義が行われた。後半では、卒業生や現役院生をパネリストに迎え、ディスカッションを行った。各パネリストから、自身の体験に基づいた内容の濃いアドバイスをいただき、参加者は非常に参考になったと思われる。男女共同参画の観点での発言時間も設定され、山本准教授から女性研究者の就職なども含めてアドバイスがあった。参加した院生は7名（うち女性1名）と少なかったが、熱気溢れる有意義なセミナーとなり、感謝申し上げたい。

「博士」学位を目指す
キャリア・就活セミナー
山大による山大学生及び県内学生のためのセミナー

【キャリアセミナー】
講師：松坂暢浩准教授
(山形大学学士課程基盤教育機構)

【パネルディスカッション】
コーディネーター：松坂暢浩准教授
コメンテーター：山本美奈子准教授
(山形大学学士課程基盤教育機構)

スリーエムジャパン：菅野 亮 氏 (H29修了)
基盤教育機構：高橋寛貴 氏 (H30修了)
埼玉大学理工学研究所：山田典靖 氏 (H30修了)
有機材料システム研究所：傅 茂鈞 さん (D3)

日 時：令和元年11月21日(木)
13:00～13:30 キャリアセミナー
13:40～15:40 パネルディスカッション
場 所：米沢キャンパス附属図書館3階ラーニングコモンズ
対 象：大学院生・大学院進学を考える学部生・ポストク

事前申込 フレックス大学院HP <http://flex.yz.yamagata-u.ac.jp/>
事前締切 令和元年11月15日(金)
同 合 せ フレックス大学院事務局(1号館102)
内線：3B34 / email:frontoffice@yz.yamagata-u.ac.jp

※ 他地区へTV会議システムにより配信いたします

主催：博士課程5年一貫プログラムフレックス大学院
共催：文部科学省ダイバーシティ研究推進実現イニシアチブ事業

図1 チラシ



図2 セミナー会場の様子

⑥-3 | 交換留学プログラム

●プログラムの目的

本プログラムの目的は、連携機関に所属する異なる研究環境・背景を有する女性研究者、および未来の研究者となりうる学生との交流により、ワーク・ライフ・バランスを保ち、そして成長し続けていくための環境づくりを促進することにある。

【大学生が留学生として企業へ】

2019年9月11日（水）～13日（金）の2泊3日、山形大学より5名（前期博士課程4名、学部生1名）、米沢栄養大学より学部生1名、大学コンソーシアムやまがたに参画する東北公益文科大学大学院より修士1名の大学生が、留学生として大日本印刷株式会社の研究開発センター（千葉県柏市）、つくば総合開発センター（茨城県つくば市）、市谷加賀町ビル（東京都新宿区）を訪問した。大学生が企業に留学する目的は、企業に籍をおく女性研究者の研究に対する姿勢と、周囲の環境とを直接見聞きすることにより、研究者としての未来の自分の姿を具体的にイメージしてもらうことで、博士課程進学者、女性研究者の増加へと繋げることにある。

◆スケジュール

9月11日（水）@ 柏		9月12日（木）@ つくば		9月13日（金）@ 市ヶ谷	
09:35	東京駅 着	09:30	ホテルロビー集合 徒歩にて、研究開発センターへ	08:30	ホテルチェックアウト（ロビー集合）
10:43	柏の葉キャンパス駅 着	10:00	社バスにて、 つくば総合開発センターへ	09:01	柏の葉キャンパス駅 発
11:10	研究開発センター 着	11:00	つくば総合開発センター 着	09:59	市ヶ谷駅 着
11:15	ガイダンス・自己紹介	11:10	DNPにおける ダイバーシティ活動紹介	10:30	大日本印刷 / 市谷加賀町ビル1F
11:20	ワークショップ（休憩）	12:00	昼食（休憩）	10:45	1F 来客ロビー・展示品説明
12:30		13:30	つくば総合開発センター見学 （技術開発センター&研究開発センター）	11:20	休憩
12:30	研究者とのランチミーティング（休憩）	16:30	つくば総合開発センター 出発 （社バスにて、研究学園駅へ）	11:30	昼食（休憩）
13:45	交流会&施設見学	17:53	研究学園駅 発	12:30	DNPファミリテイ / 食堂・厨房見学
17:30		18:32	柏の葉キャンパス駅 着（終了）	14:30	会社説明 & 管理栄養士交流会
				14:40	質疑応答&交換留学まとめ
				15:30	市谷加賀町ビル 出発
				16:00	市ヶ谷駅 発
				17:00	東京駅 発

表1 スケジュール

●強制連想法を用いたワークショップ

新しいアイデアを創出するための手法のひとつである強制連想法を用いたワークショップを開催した。強制連想法とは、一見関連性のない2つのものを強制的に関連付けながら自由な発想でアイデアを創出していく発想法である。テーマを「フードロスをなくすためのサービス・製品アイデアを提案する」とし、10個もの優れたアイデアが創出された。

●研究開発センター（千葉県柏市）施設見学

柏研究施設は、本社の研究開発センターだけでなく、事業部の製品開発部門も集積した大日本印

刷の「ものづくり系の研究開発」の拠点である。施設見学では、包装事業部の食品包装の製品開発エリア、ライフサイエンス分野の研究開発エリアを中心に実施した。食品包装の製品開発エリアでは、大型の製造装置を使った製品開発が行われている現場を見学した。身近な製品ということもあり関心が高く多くの質問があった。ライフサイエンス分野の研究開発エリアでは、大日本印刷の印刷技術を応用した新しい取組みとして、1つの細胞からオルガノイド（ミニ腸）を製造するプロセス開発の現場を見学した。参加者は、印刷技術からミニ腸の飛躍に驚きつつも、大日本印刷が大学の研究室に近い基礎研究テーマから既に事業化している身近な製品の開発まで、幅広く手掛けていることを理解した。

●大日本印刷におけるダイバーシティ活動紹介と山形大学卒業生との交流会

初めに、大日本印刷におけるダイバーシティの取り組みについて説明した。1986年の男女雇用機会均等法の施行より、第1フェーズとして人事労務制度の見直しを実施し、女性社員の採用促進と職域の拡大を図った。2003年以降の次フェーズでは女性社員の定着を支援するメンタリングなどを通じ、フェア&ケアを中心に公平で公正な機会の提供、処遇と個々の事情への配慮・サポートを実施、現在では、さらに拡大し、男女問わず、多様な働き方に対応した制度を運営している。その内容を踏まえ、山形大学を卒業した男性管理職1名、女性研究職3名を囲んで、それぞれの経歴、実情について質疑応答を交え交流会を実施した。学生時代にどのように考えて研究していたのか、就職してからの研究とのギャップや、子育てしながら研究開発を進めていく上での不安などについて、意見交換を行った。大学時代と社会人となってからの出来事を結び付けながらの体験談を、女性研究者、男性研究者双方から実際に話を聞くことが出来た経験はたいへん貴重だったとの感想が聞かれた。

●技術開発センター、および研究開発センター見学

つくば研究施設では普段は見ることのできない大型印刷設備の見学、省エネルギーへの取り組みなどについての説明を行った。また、材料系の実験室での実際の合成作業の見学や分析機器の見学を実施した。参加者にとっては大学で使用している実験設備や分析機器に比べ、スケールも大きく実際の製品開発を推進していくのに必要な工程の一端を知るきっかけになったようである。また、大学の研究室ごとの環境と全く異なる大部屋で研究者同士が交流できるスペースも紹介し、オープンイノベーションの環境について体感してもらった。

●大日本印刷加賀町ビル社員食堂見学、および企業管理栄養士との交流会

大日本印刷のグループ会社であるDNPファシリティサービスが運営する食堂見学、および同社の管理栄養士との交流会を実施した。単に「食」を提供するだけではなく、管理栄養士によるポスター展示や様々なイベント、そして遠隔診療サービス『ホスピタリンク』などの積極的な社員の健康サポート体制について紹介した。

●留学を終えて（アンケートまとめ）

- ・女性研究者に対する支援がとても充実していた。交流会にて2度の育児休業と帯同休業を経て5年後に仕事に復帰したと聞いたときにはたいへん驚いた。
- ・就職活動を目前にし、企業の方と多くの交流や対話をしたと思っていたので、かなりの充実感を感じた。技術・研究職にはまだ女性が少ないイメージをもっていたのでワーク・ライフ・バランスをうまくとれるか不安だったが、うまく成し遂げている方が多く、将来見習えるとよいと思った。
- ・社会人となってからの時間の使い方、予定の立て方、そして人との関わり方がどのように変化したのか、また、大学生の間にどのようなことをしておけばよいのかなど、現在の自分にもこれからの自分にも必要なことを教えていただいた。



図1 留学生

【企業女性研究者が留学生として大学へ】

2019年11月25日（月）～27日（水）の2泊3日、大日本印刷株式会社研究開発センター（以下大日本印刷）のメンターを含む女性研究者4名が留学生として、山形大学（米沢キャンパス、飯田キャンパス、小白川キャンパス）、山形大学医学部附属病院を訪問した。

◆スケジュール

11月25日（月）@ 米沢		11月26日（火）@ 米沢～山形		11月27日（水）@ 山形	
09:23	米沢駅 着（米沢キャンパスへ）	09:30	実証工房 スマート未来ハウス 見学・交流会	08:55	飯田キャンパス 着
10:00	米沢キャンパス内見学	12:00	研究者とのランチミーティング（休憩）	09:00	保育所・医学部附属病院 東日本重粒子センター 見学
12:00	研究者とのランチミーティング（休憩）	13:00	情報・エレクトロニクス学科 原田研究室 訪問	11:30	小白川キャンパスへ移動・昼食
13:00	高分子・有機材料工学科 時任研究室 訪問	14:30	機械システム工学科 西山研究室 訪問	13:15	理学部 SCITAセンター 見学
14:30	科学・バイオ工学科 増原研究室 訪問	16:15	米沢キャンパス 出発	15:10	小白川キャンパス 出発
16:00	山形大学JOINとの交流会	18:21	山形駅 着（終了）	16:07	山形駅 発
17:15	終了				

表2 スケジュール

●山形大学 時任静士研究室（高分子・有機材料工学科）訪問

山形大学出席者

久禮得男（産学連携教授）

有機材料を用いた様々なデバイスをご紹介いただいた。既に商品化に至っているものや、それに向けた試作品、デモ機に触れることで、最先端技術のすばらしさをより実感することができた。体験させていただいた圧力センサは、座布団やマットレスの下に設置しても情報を得ることができ、その感度の高さに驚いた。また、輸送中の情報を収集することのできる品質管理タグなど、今後、どのような形で商品化されていくのか非常に楽しみであった。

●山形大学 増原陽人研究室訪問（化学・バイオ工学科）

山形大学出席者

増原陽人（大学院理工学研究科・准教授）

鈴木亨奈（物質化学工学科・学部4年）

有機ナノ結晶を用いた様々な高機能材料の研究成果と、それを支える数多くの装置を紹介いただいた。高性能な製品には不可欠な材料の開発とその信頼性の試験までを実施しており、実用化を見据えた研究が進められている。

●山形大学 原田知親研究室訪問（情報・エレクトロニクス学科）

山形大学出席者

原田知親（大学院理工学研究科・助教）

限られた電力で長期間駆動する極低電圧集積回路とその実証実験の様子を紹介いただいた。『何に重きを置くか』を常に考えながら研究を進めていくその姿勢は、企業の研究者として学ぶべきものが多く、必要とされる仕様を多角的に考え、研究開発のリソースを配分することの大切さを学んだ。

●山形大学 西山宏昭研究室訪問（機械システム工学科）

山形大学出席者

西山宏昭（大学院理工学研究科・准教授）

フェムト秒レーザを用いた超微細加工技術を紹介いただいた。レーザの照射により粒子が凝集する現象はたいへん興味深いものであり、提供いただいた論文により知見を深めることができた。また、開発されている生体内にて駆動するソフトアクチュエータが、未来の医療に大きく貢献することを期待する。

●実証工房：スマート未来ハウス見学、および女性研究者交流会

山形大学出席者

佐野健志（有機エレクトロニクスイノベーションセンター・教授）

高澤由美（大学院理工学研究科・助教）

壁一杯に広がる大型ディスプレイや有機EL照明、フィルム型スピーカ、ヘルスチェック機能を有するデバイスなどの最新の技術が詰まった未来の生活を体験することができた。

見学の後に開催された山形大学の女性研究者との交流会では、「未来の家」をテーマに意見を交換したが、自分とは異なる視点・考え方を聞くことはとても興味深く、時間に制限があったことが残念に思われた。



図2 スマート未来ハウス見学の様子

●山形大学 飯田キャンパス 医学部附属病院訪問

医学部附属保育所すくすく訪問

大学病院内という特殊な環境下の中に置かれながらも、子どもの安全を守りながら手をかける時間を作り出し、保護者と保育所との信頼関係を高めていく様々な取り組み、工夫に関心させられた。

医学部附属病院見学

2016年6月に初めて訪問させていただいた際に、課題として伺っていた「複雑な院内の案内」が見事に解決されており、また、病院内であることを感じさせることのない明るくポップな空間へとかわっていた。来院者への案内がタブレットではなく、院内地図がデザインされたクリアファイルに、次へ向かう先への順路（矢印）が印刷された用紙を挟むことで行われており、全ての年齢層の方に配慮した優れた方法であると感銘を受けた。

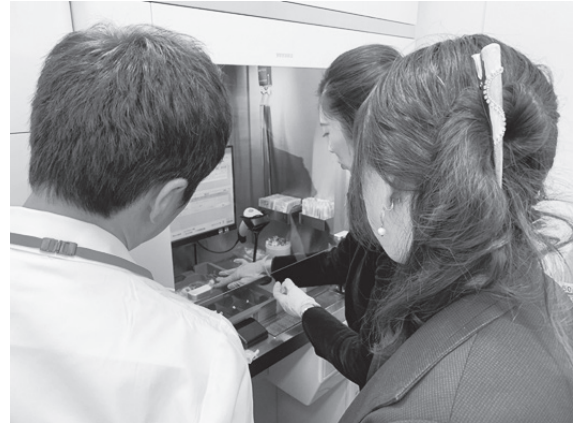


図3 ダブルアーム型抗がん剤混合調整ロボット体験の様子

東日本重粒子線治療センター見学

山形大学出席者

岩井岳夫（医学部・教授）

世界最先端の重粒子線治療装置を見学した。今年8月からの治療開始に向け、世界最先端の重粒子治療装置が組み立てられるその最中であった。装置の裏側や階下の重粒子加速装置までを見ることができたのは非常に貴重な体験であった。

●山形大学 理学部SCITAセンター、および博物館見学

山形大学出席者

栗山恭直（理学部・教授）

当センターは、理科学習の普及活動を促進するための本学独自のプロジェクトである「やまがた未来科学プロジェクトに基づいて、科学的思考能力を備えた将来の山形あるいは日本を支える人材を育成する目的で設置された。体験させていただいた実験教室では、科学の楽しさを改めて実感し、子どもの頃から身近に楽しく科学に触れる機会があることを、とても羨ましく感じた。

●留学を終えて（アンケートより）

大学の学部を横断し様々な研究とその成果をご紹介いただくことはとても貴重な体験となった。また、研究室だけではなく大学施設を見学させていただくことで、今までにない気づきを得ることができた。

7 広報活動

【ホームページ】

事業の一層の理解と制度の利用促進のため、ホームページの更新を定期的に行った。特にセミナーやシンポジウムの案内に力を入れ、参加を促すためにホームページからWEB申込みが出来るようにした。

【ニュースレター】

山形大学男女共同参画推進室発行のニュースレターにはダイバーシティ事業の実施報告なども掲載した。

【パネル展での広報】

山形大学男女共同参画フェスタで、女性研究者シーズ紹介パネル展示と各セミナーのチラシ配布も行った。

【新聞報道】

山形新聞「日曜随想」令和元年11月3日（日）

山形新聞「日曜随想」を県立米沢栄養大学学長の鈴木道子氏が1年間担当された。鈴木学長は、この日の記事で「変わった？女性を巡る環境」というテーマでジェンダーの問題を取り上げ、その中で「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に3機関が取組んでいることを県民に広く紹介していただいた。

【2019年度版ものづくり白書】

第4章第2節2「ものづくりにおける女性の活躍促進」コラム

本事業が、サービスデザインプロジェクトをとおして研究力を向上させ、COI連携を強化して女性研究者の活躍促進を図っていることが、「2019年度版ものづくり白書」（経産省・厚労省・文科省2019.6.11）に掲載された。

【全国ダイバーシティネットワーク組織ウェブサイト・取組事例集】

平成30年11月に「全国ダイバーシティネットワーク組織」が設置され、令和元年にウェブサイトOPENedが開設された。

本学の取組が参考事例として掲載されており、「取組事例集2019年」も発行された。

研究力向上
サービスデザインプロジェクトとネットワークを活用した
特色ある研究力向上の取組

取組の概要
サービスデザインプロジェクトにより研究力を育成し、山形大学COI(フロンティア有機システムイノベーション 拠点)との連携や県内外のネットワークを活用することにより、一層の研究力向上と女性研究者の活躍促進を目指します。

取組の内容
サービスデザインプロジェクトによる研究力向上の取組
サービスデザインとは？
サービスを創出する人の「体験価値」を重視し、顧客のタッチポイントのデザインに基き、事業としてサービス全体をデザインしていく行動です。

サービスデザインプロジェクトによる研究力向上の取組
サービスデザインとは？
サービスを創出する人の「体験価値」を重視し、顧客のタッチポイントのデザインに基き、事業としてサービス全体をデザインしていく行動です。

ネットワークによる女性研究者の持続的な活躍促進
ダイバーシティの推進
信用の創造
地域への波及
全国ダイバーシティネットワーク組織
東日本ブロック会議
大学コンソーシアムや協賛した
ネットワーク会議
山形大学
東北ブロック会議
山形大学
COI連携
ダイバーシティ推進協議会
イニシアティブ(連携型)
山形大学
COI連携
全国ダイバーシティネットワーク組織
東日本ブロック会議
大学コンソーシアムや協賛した
ネットワーク会議
山形大学
東北ブロック会議
山形大学
COI連携
ダイバーシティ推進協議会
イニシアティブ(連携型)

さらに、世界屈指の有機エレクトロニクスを技術基盤とし、未来の豊かで健康な社会の実現を目指す山形大学COIと連携し、イノベーションを起こすことを目標に取組を進めています。また、大学コンソーシアムやまがたに「ダイバーシティ推進ネットワーク」を設立し、全国ダイバーシティネットワーク組織・東北ブロック会議のネットワークを活用することにより、各機関の連携を軸としながら女性研究者の持続的な活躍促進を図っているところです。

問い合わせ先: 山形大学 男女共同参画推進室
OPENed該当ページへのリンク
<https://www.opened.network/issue/p-0030/>

図1 取組事例集の記事

8 評価

8-1 | 外部評価委員会名簿・委員会内容

設置の経緯

山形大学、大日本印刷株式会社研究開発センター及び山形県立米沢栄養大学が共同で実施するダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関し、外部の有識者から意見をいただき事業をより円滑を実施するために、平成27年11月25日ダイバーシティ事業の代表機関である山形大学にダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）事業に関する外部評価委員会が設置された。

評価委員は、次のとおり（敬称略）。

平成31年4月1日現在

推薦機関	氏名	現職等
山形大学	小館香椎子	日本女子大学名誉教授・電気通信大学特任教授
大日本印刷株式会社 研究開発センター	木村 文雄	近畿大学建築学部 教授
山形県立米沢栄養大学	大泉 享子	山形県労働委員会委員

第1回目の委員会は、平成28年2月24日に山形大学事務局棟第一会議室（山形市小白川キャンパス）において、第2回目は、平成29年2月14日に会場を山形大学男女共同参画推進室米沢分室が所在する山形大学米沢キャンパス（米沢市）に移し、それぞれ開催された。第3回目は、平成30年1月29日（月）に前年と同様に山形大学工学部百周年記念会館セミナールームで開催され、文部科学省による中間評価ヒアリングの報告を行い、これまでの成果を確認し、後半の事業をさらに進展させるためにご意見を賜った。また、時限到来時（原則3年）において内容等を見直すことと規定されている、以下の規程の一部改正措置について報告を行った。

- ・山形大学男女共同参画推進に関する規程
- ・山形大学男女共同参画推進米沢分室規程
- ・山形大学ダイバーシティ連携推進会議規程
- ・ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会規程

この結果、外部評価委員会は令和2年度末まで3年間延長して継続されることになり、外部評価委員は「各機関が推薦する有識者2名」から「各機関が推薦する有識者1～2名」に改正され、令和元年度から合計3名の有識者に委嘱することになった。

外部評価委員会の概要

平成30年度以降も連携体制を維持し、基本的な事業を継続しているが、自首財源による運営になったことから一部見直しを行った。その中で、ダイバーシティ連携推進会議（持ち回り）を平成30年10月23日に開催し、外部評価委員会を持ち回り会議にすることについて協議し、承認された。

1 通知

令和元年12月20日付けで、昨年度と同様に、令和元年度ダイバーシティ事業に関する外部評価委員会（持ち回り）の開催について下記のとおり通知し、外部評価委員に評価書の提出を依頼した。

(1) 日程

- | | |
|--------|------------------------|
| 12月20日 | 外部評価委員に対して文書による事業報告の提出 |
| 1月10日 | 各委員より評価書を受領 |
| 1月31日 | 質問・意見などに対する回答書を提出 |
| 2月上旬迄 | 外部評価書を作成し、活動報告書に掲載 |

(2) 外部評価委員会への事業報告

- ①令和元年度事業の進捗状況について
- ②期間内の最終年度の事業について

(3) 添付資料

- ・資料1_令和元年度事業報告
- ・資料2_最終年度の事業について
- ・資料3_R1-1ダイ連携（国）山形大学：進捗報告書
- ・資料4_研究者別論文リスト（H27-30）
- ・資料5_女性研究者外部資金獲得表（H27-30）

2 評価書

令和2年1月に小舘香椎子委員、木村文雄委員、大泉享子委員の3名から評価書を作成いただき、受領した。その後、質問・意見などに対する各機関の回答書を委員へ送付するとともに、連携機関で内容を共有した。このたびの外部評価委員会では、来年度で事業期間が終了することから、最終年度の事業と今後の継続性に関して幅広い視点からご質問・ご意見をいただいた。委員の皆様から、本事業の目標達成のための的確なご指摘とご助言を賜ったことに感謝申し上げたい。外部評価委員会の内容を次年度の取組に誠実に反映し、目標達成を目指していく決意である。

3 外部評価委員の主なご指導

小舘香椎子 委員

事業4年目を迎えて、3機関の連携体制も定着し、支援制度が構築されたことにより、女性研究者の裾野野拡大や女性を含む共同研究の促進も自主財源により推進されたことは高く評価できる。特に、ネットワークによるダイバーシティの推進を目指した大学コンソーシアムやまがたを発足し、

幹事大学として南東北のネットワークを構築したことは注目に値し、事業の推進・波及に向けて今後が期待される。一方、女性研究者の就業比率が依然目標値を下回り対応策の成果が見えないので、引き続き大学全体での具体的な取り組みは必須であると思われる。

自主財源で迎える最終年度では、次の点がどうなっているか教えていただきたい。

- ・学内におけるダイバーシティに対する意識改革の推進事例、および男性教員・研究者の参加度
- ・女性を代表とする共同研究（研究目的・内容・論文などの成果）の報告書作成
- ・事業終了後の支援継続体制の確立のために検討されている具体案と体制
- ・機関における女性研究者の在職・採用・離職の比率（職位別）

特に、地方大学での離職については、家族の同居が難しいなどが原因にあるので、職位・年齢別の離職者数と離職の理由は女性研究者数の増加およびリーダー育成には重要な視点である。

- ・3機関で実施した人的交流、および人事交流の実績、および検討中の事柄

全体的に、これまでの事業実績をもとに、3機関の連携体制を維持し、さらに新たな成果につながるネットワークによる推進を行うなど、自己資金による地道、かつ強力な事業展開は高く評価できる。

しかし、一方で、「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造」という事業タイトルへの理解は現状の成果と結びつきにくいと思われる。この点を払拭する検討は必要であり、研究成果のさらなる展開も意味があると思われる。

さらに、山形大学の女性研究者の就業比率の向上に向け、種々の対応策が実施されてきているが、成果が見えてきていないことに関しては、大学首脳部の強いリーダーシップが不可欠と思われる。そのためにも、参加3機関のそれぞれにおける女性研究者と男性研究者による本事業の評価・課題の把握（アンケート調査を含む）を試みて、構成員がダイバーシティ事業の重要性と意義を自覚したうえで、継続に向けての新たな事業展開を検討することも必要だと思われる。

木村文雄 委員

事業について、丁寧に報告されており高く評価できる。他機関へ異動または進学した教員が15名に上ってしまった理由は何かについては、詳しく教えてほしい。

最終年度の取組については、女性教員にとって山形大学の魅力とは何かということを、あらためて考え、整理して頂きたい。すなわち他大学に比べて、いきいきと研究や教育に専念できる環境はあるのか？という自問自答から、何が充足して何が不足しているのか、課題は何か、を客観的に分析し対策することで自ずと女性教員は増加し、継続性に繋がると思う。（企業でも同様である。）

また、女性研究者から幾つかの魅力的な研究、アイデアやテーマが出てきたことは素晴らしいと思う。しかし社会実装できなければ意味がないので、取捨選択をして、実現可能性の高いものを選び、CIOや他機関とも連携しながら、地域への実装化に向けて具体的な活動を実施して欲しい。女性視点の素晴らしさや重要性は言うまでもないので、より積極的に推進して頂きたい。

大泉享子 委員

事業報告中の離職者と在職比率の表については見直しが必要であり、退職した女性教員がより発展性のある職に就いていることは山形大学の女性研究者育成の成果として十分評価できることであり、プロジェクトの成果として記述すべきと思う。

研究支援の環境づくりの進捗も伺え、例えば、保育制度の構築などは女性研究者のみならず研究者全体や地域へも広がっているなどプロジェクトの成果が表れている。連携推進のための会議や交流シンポジウムの開催などの環境整備も以前より増となっており、事業の成果につながると思う。

最終年度 of 取組については、女性研究者の増や上位職登用者の増など、確実にプロジェクトの成果が表れており、また、連携の推進により、研究の幅が広がり、女性研究者の持続的な活躍が見込まれるなど、在職比率の目標達成はなかなかではあるが、事業としての成果が十分見えてきている。

山形大学COIとの連携により、研究成果の社会への実装が明確になった感があり、今後の研究の発展を大いに期待し、また、地域への還元の実現につながることを期待している。

健康長寿をテーマとした研究は地域への還元としては今後も期待されるものと考えられ、各機関の連携により、幅広い分野の女性研究者の参画や研究交流を進め、研究成果の地域への還元を目指して欲しい。そのためにも、共同研究におけるコーディネーターの役割の充実と研究成果の発信を継続して頂きたい。